

有機農業への理解を深めるための 農業大学校の取組

農業総合センター農業大学校

農業大学校では、県の施策や生産現場における課題を取り入れた教育内容の充実に努めており、その一環として有機農業に関する教育に取り組んでいます。農水省の成果発表に応募を試みるほか、みどりの食料システム戦略の実現に向けた有機農業の必要性や、普及拡大に向けた県の取組、有機農業の魅力や実践内容等について講義や視察を行うことにより、学生の意識を醸成することができました。また、いばらき営農塾においても受講者からのニーズに応じた有機農業に関する講義をおこなっております。

みどり戦略学生チャレンジへの参加

農林水産省が令和6年度から全国版で開始した、みどりの農業システム戦略に関する学生の研究成果発表の場である「みどり戦略学生チャレンジ」に5点応募しました。応募した結果、畜産学科学生の「干し芋残さの飼料化に関する検討」が関東ブロック大会にて関東農政局特別賞を受賞しました。

取り組み内容については、ポスターを県庁2階の展示コーナーで公開しました。



図1 表彰式（農政局と茨城農大）



図2 先進有機農業者の視察

授業等を通じての理解促進の取組

農業部では、有機農業に取り組んでいる生産者を招いての特別講義により、有機農業への理解を高めるとともに、令和6年からは専門家を外部講師に招き「有機農業概論」の講義を新設しました。

園芸部でも校内での講義のほか、校外学習による先進有機農業者への視察などを通じて、有機農業への理解を高めています。

いばらき営農塾での有機農業の取組

野菜入門コースでは、有機農業概論の講義を増やすほか、今年から始まったフォローアップコースでは、実習に加え有機栽培の現地研修を行いました。研修先の日本実践学園では有機栽培ほ場や落葉たい肥の作成状況を見学しました。それを参考にして、冬場に実際に自分たちでボカシ肥料の作成に挑戦しました。また、ファームランドさいとうでの研修は、有機JASの認証を受けたベビーリーフ栽培やアイガモ農法による有機米栽培など特徴ある農産物や加工品の販売について学びました。



図3 雑草防除を目的とした太陽熱消毒の様子（日本農業実践学園にて）